

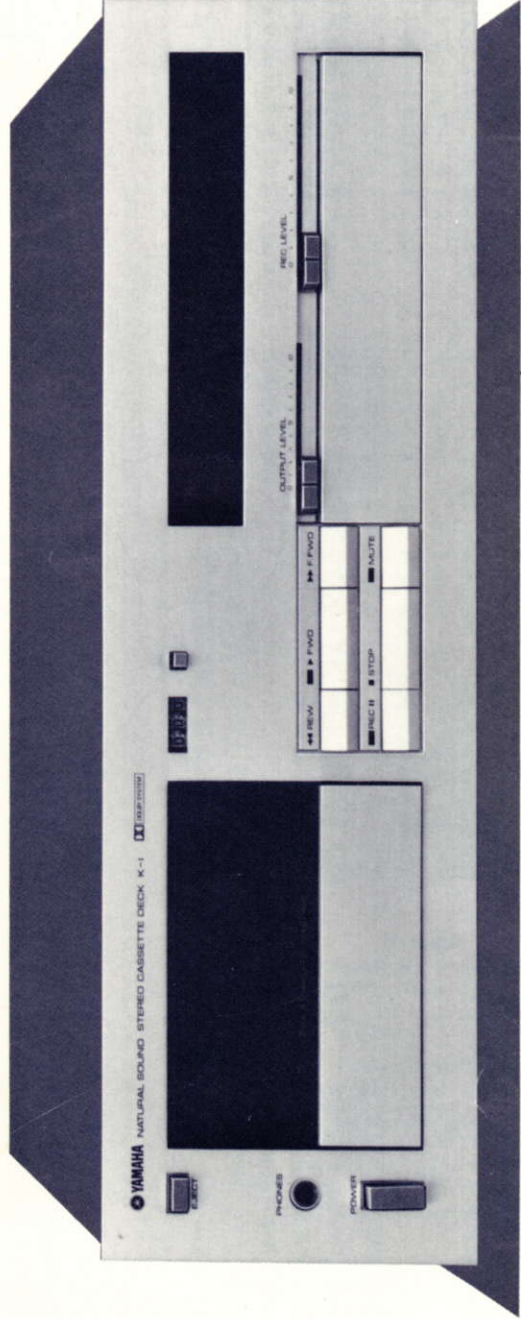


YAMAHA

K-1/K-1B

**NATURAL SOUND
STEREO CASSETTE DECK**

取扱説明書



●ごあいさつ

このたびは、ヤマハステレオカセットデッキK-1/K-1Bをお求めいただき、まことにありがとうございました。

K-1/K-1Bは、ヤマハが開発したPure & Plasma Process Headの優れた特性を生かすため、ローノイズFETによるヘッドアンプにダイレクトに接続して高品位の音質と、SN比や歪率、そして周波数特性などを大幅に改善いたしました。

また、2モーター、3プランジャーの高精度メカニズムと、電子コントロール回路によるフェザータッチのロジカルコントロールを搭載し、卓越した操作性を実現しています。さらに、K-1/K-1Bはバーグラフによるピークレベルメーターや、豊富な付属機能を加えて設計された、カセットデッキです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みの上、末長くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

●特長

- ヤマハ独自の製法によるPure & Plasma Process Headの採用。
テープヘッドとして最適な特性をもつセンダストヘッドによって、摩耗性に強く高いSN比と低歪率、そして良好な周波数特性を得ています。
- ローノイズFET使用のヘッドアンプ。
高性能ヘッドの特性をストレートに生かすため、ヘッドアンプとダイレクトカップルしました。ヘッドアンプは、ローノイズFETを使用した全段直結回路で、高いSN比とダイナミックマージン、そして低歪率特性を得ています。
- 操作性を追求したメカニズム部
2モーター、3プランジャー方式によるフェザータ

ッチの操作ボタンは、ICを使用したヤマハ独自のロジカルコントロール回路により高い信頼性を備えています。

- バーグラフによるピークレベル表示
両チャンネルの出力レベルが-30～+2dBまで確実に直視することができるバーグラフのピークレベルメーターは、リカバリータイムの切り換えスイッチ付きで、ダイナミックレンジの広いプログラムソースでも、歪みの少ない忠実な録音レベルのモニターがおこなえます。
- 時代の先端をゆく多様な付属機能
カセットデッキに、あらたな機能としてサウンド

フォーカス、サブソニック、RECバランスなどのスイッチやコントロールが加えられました。また、MPXフィルタースイッチやドルビーNR、連続可変のバイアス調整など、高忠実度な録音再生には不可欠な機能を搭載し、さらにメモリーストップ、タイマー録音などの可能によって応用範囲を拡大しております。

- シンプルなデザイン
洗練されたフロントパネルのシンプルなデザインは、バーグラフピークレベルメーターの光の動きに美しくマッチしており、常時使用しないスイッチ類はシーリングパネル内に収納しました。

●目次

特長	2
ご使用になる前に/次のことにご注意ください	3
各部の名称と機能/フロントパネル	4
接続図	7
録音の手順	8
再生の手順	9
ピークレベルメーターについて	10
メモリーストップスイッチについて	10
タイマー録音について	11
カセットテープについて	12
規格	13
故障と思われるときには	14
ブロックダイアグラム	15
サービスのご依頼について	15

K-1/K-1B

ご使用になる前に／次のことにご注意ください

■設置場所にご注意ください

次のような場所に置きますと音質を悪くしたり、故障の原因となりますのでご注意ください。

- ①直射日光の当る所や暖房器具のそばなど極端に暑い場所（35℃以上）
- ②温度の特に低い場所（-5℃以下）
- ③湿気やホコリの多い場所
- ④振動の激しい場所
- ⑤磁気の多い場所：テレビやモーター、トランス類を使った家電製品の近くには置かないようにしてください。

■無理な力を加えない

K-1/K-1Bのスイッチやツマミ類は、説明に従い適正な操作をするようにしてください。無理な力を加えますと、コントロール部に負担がかかり故障の原因となります。

■電源コードも大切

電源コードは傷つけないように大切に扱い、コンセントからはずすときも、コードを引っばらないで必ずプラグを持って抜いてください。旅行などで長時間ご使用にならないときは、必ずコードをコンセントからはずしてください。

■殺虫剤、シンナー、ベンジンは避けて

ベンジンやシンナーがつくとケースが変色したり汚れたりします。エアゾール式の殺虫剤や化学ぞうきんの使用は避けてください。フロントパネルのお手入れは、柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

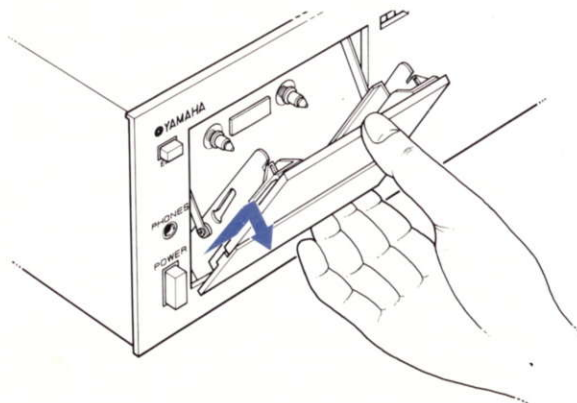
■ヘッドイレーサーの使い方

ヘッドが帯磁すると再生音に雑音が入ったり、録音済みのテープにノイズが入ったりします。市販のヘッドイレーサーで消磁してください。

- ①電源スイッチをOFFにします。
- ②まず図のようにカセットボックスのドアをはずし、再び押してカセットボックスをもとに戻してください。
- ③ヘッド面にイレーサーがふれないようにして消磁を行ないます。

NOTE：イレーサーがヘッド面に充分近づけない場合——

- ①電源スイッチをONにし、プレイボタン(FWD▶)を押すとヘッドが上がります。
- ②出力レベル調整ツマミ(OUT PUT LEVEL)を完全に左にしまり切ってください。
- ③この状態で消磁します。



■キャビネットを開けない

キャビネットや底板を開けて中にふれることはおやめください。故障と思われるときは、お買い上げ店またはもよりの日本楽器各支店にご相談ください。

■ヘッドの清掃

本機のヘッドには新開発のセンダスト合金による録音・再生ヘッドが使われており、S/N比や歪特性の良い高性能ヘッドですが、古いテープやほこりなどで汚れたりしますと、音質に大きく影響しますので市販のクリーニングテープなどで定期的に清掃してください。

■保管してください

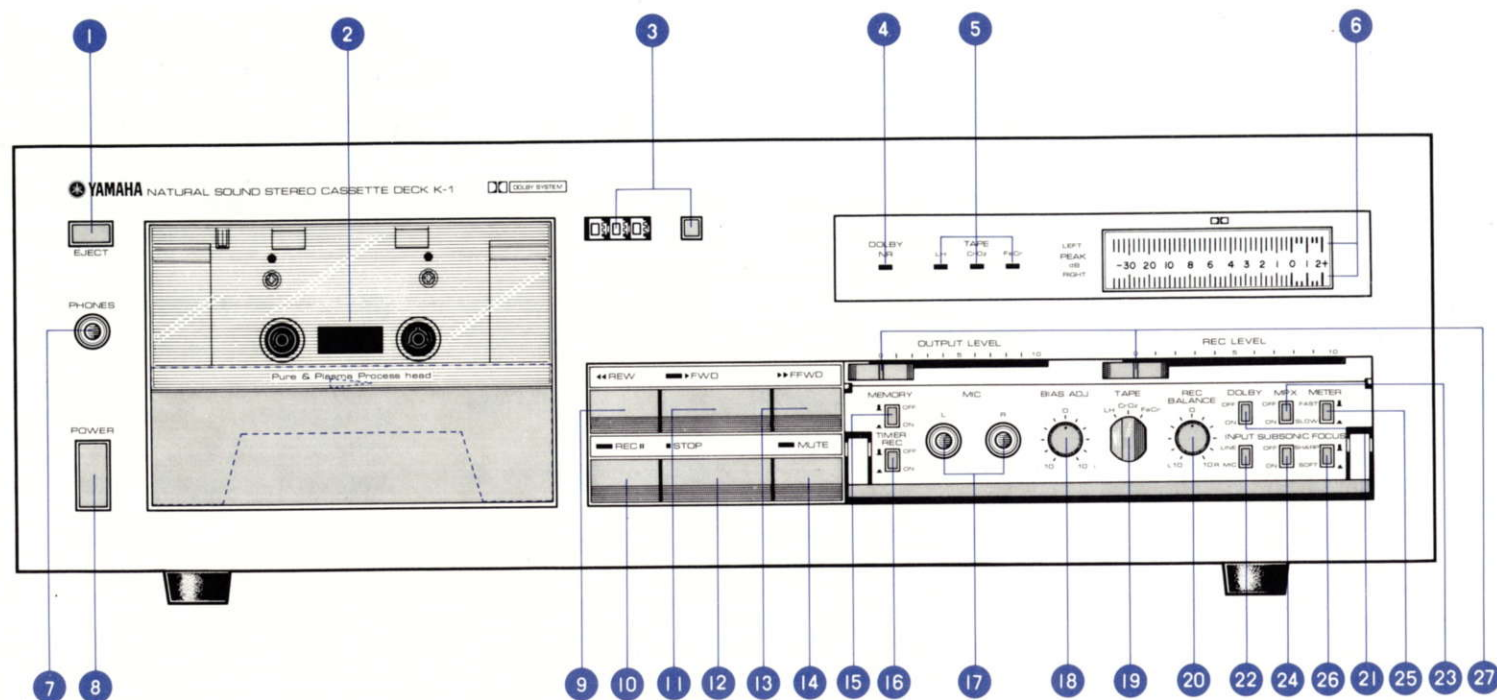
この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

■保証書の手続き

お買い上げいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、充分ご注意くださいようお願いいたします。

K-1/K-1B

各部の名称と機能



●カセットボックスの点線部分はK-1Bの形状を表わす他、パネル部外装部共、ブラック(黒)仕様となっています。

① イジェクトボタン (EJECT)

このボタンを押すとソフトダンブ方式によって、なめらかにカセットボックスのドアが開きます。テープを出し入れするときに押してください。必ずSTOPボタンを押してテープの走行を止めてから操作します。

② カセットボックス

カセットテープを収納する場所で、イジェクトボタンを押すと手前に開きます。

③ テープカウンター/リセットボタン

このボタンを押してテープカウンターを“000”に

しておくと、録音や再生のときにプログラムの頭出しがすぐできます。

④ ドルビーインジケーター (DOLBY NR)

ボックスパネル内のDOLBYスイッチをONにすると、緑色のインジケーターが点灯し、ドルビー回路が動作していることを示します。

※DOLBYと $\square\square$ マークは、ドルビー研究所の登録商標です。

⑤ テープインジケーター (TAPE)

ボックスパネル内のTAPEスイッチを使用テープに合わせて、それぞれのインジケーターが点灯

し、使用テープを表示します。

⑥ ピークレベルメーター (PEAK)

電源スイッチを押してONにするとバークラフが点灯し、録音のときは録音レベルを、再生のときは再生レベルのピーク値を示します。表示範囲は、-30dBから+2dBまでです。

⑦ ヘッドホンジャック (PHONES)

ヘッドホンをお使いになるときは、ヘッドホンコードのプラグを差し込んでください。録音・再生時のモニターができます。モニターの音量調整は出力レベル調整つまみでおこなってください。

⑧ 電源スイッチ (POWER)

電源コードのプラグを AC コンセントに挿入し、このスイッチを押して ON にすると電源が入り、カセットボックス内部とレベルメーターが点灯します。

電源スイッチを ON した後すぐにプレイボタンを押しても動作せず約 5 秒後に動作します。これは回路が正常動作するためのミュート回路が入っているためです。

⑨ 巻戻しボタン (REW ◀◀)

テープを巻き戻すときに押してください。テープが巻き終わりますと、テープは自動的に停止します。

⑩ 録音スタンバイボタン (REC ■)

このボタンを押すと赤色のインジケーターが点灯し録音スタンバイの状態となります。この状態で録音レベルのセッティングができます。

⑪ プレイボタン (FWD ▶)

テープ再生のときに押します。このとき、緑色のインジケーターが点灯します。録音スタンバイ状態のときこのボタンを押しますと録音開始となります。テープが巻き終わりますと、テープは自動的に停止します。

⑫ 停止ボタン (STOP ■)

テープ再生、録音、早送り、巻き戻しを停止させるときに押してください。

⑬ 早送りボタン (F・FWD ▶▶)

テープを早送りするときに押してください。テープが巻き終わりますと、テープは自動的に停止します。

⑭ 録音ミュートボタン (MUTE)

録音中にこのボタンを押すと、押している間は赤色インジケーターが点灯し録音信号をカットしま

す。(この場合、テープは走行しています。) FMエアチェックの際に CM をカットしたり、アフターレコーディングに備えてブランクスペース用としたり、ワンタッチで無音状態をつくることができます。

⑮ メモリストップスイッチ (MEMORY)

この機構は、録音した箇所をただちに再生したい場合や、同じ所を何回も繰り返して聞く場合などにご使用ください。

まず MEMORY スwitch を ON にし、テープカウンターを "000" にします。その後、再生または録音を開始した後、巻き戻し (◀◀) ボタンを押しますと、テープカウンターの数字が少し前の "999" になるとオートストップが働きます。このスイッチが ON になっている限り、テープの同じ場所からの頭出しがスムーズにおこなえます。

⑯ タイマー録音ボタン (TIMER REC)

別売のタイマーを使って留守録音ができます。本機に録音テープをセットし、このボタンを ON しておく、好きな時間に録音することができます。※タイマーを使わないときには、このボタンは必ず OFF しておいてください。このボタンが ON のまま電源スイッチを ON にしますと、録音状態となり録音済みのテープを消してしまうことがありますのでご注意ください。

⑰ マイクジャック (MIC)

ステレオ録音する場合は左右各 1 台、計 2 台のマイクロホンが必要です。(ステレオ録音時には左右のマイクの特性の合った物をご使用ください。)

⑱ バイアス調整ツマミ (BIAS ADJ)

録音するテープに合わせて、バイアス電流を +8% から -8% まで連続調整できます。(12 ページ参照)

⑲ テープセレクタースイッチ (TAPE)

使用するテープに合わせて切り換えてください。そのテープにおける最良の音質が得られます。

- クロームテープ → CrO₂
- ローノイズテープ → LH
- フェリクロームテープ → FeCr

⑳ 録音バランス調整ツマミ (REC BALANCE)

録音時の L (左)、R (右) チャンネルの音像バランスを調整するツマミです。

普段は 0 の位置にセットしておきます。

㉑ ドルビーボタン (DOLBY)

ドルビーシステムとは録音時、小信号レベルにおいてテープのヒス (サーッとという高域成分の) ノイズを効果的に減らすシステムです。

ドルビーシステムで録音、再生するときは、このボタンを ON にしてください。ピアノシモでも極めてノイズの少ない録音、再生が楽しめます。ドルビー再生は、ドルビー録音されたテープのみおこない、その他の場合は OFF にしてください。《ドルビーボタンが ON になりますと、緑色のインジケーターが点灯します。》

㉒ 入力切り換えボタン (INPUT)

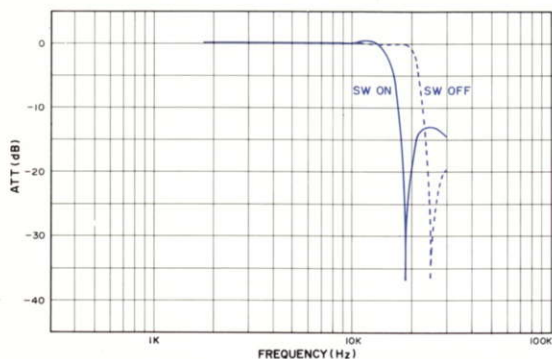
録音時マイクとライン入力の切り換え用ボタンです。

ボタンを押すと (■) → MIC
もう一度押すと (■) → LINE 入力に切り換えられます。(マイクとラインのミキシングはおこなえません。)

㉓ マルチプレックスフィルターボタン (MPX)

FM ステレオ放送には 19KHz のパイロット信号等が含まれています。この信号成分が漏れていますとドルビー録音する際誤動作する場合がありますので、FM ステレオ放送録音の際にはこの MPX

フィルターボタンをONしてご使用ください。その他の録音時にはOFFにしてご使用いただければ結構です。

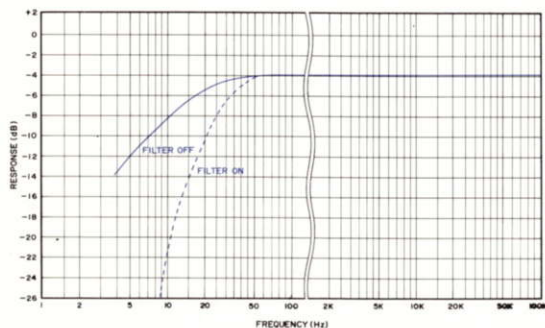


24 サブソニックフィルターボタン (SUBSONIC)

このボタンをON (■) にしておくと、録音時にレコードのそりなどの超低域の信号により録音信号全体が歪んでしまうような悪影響を防ぐことができます。

普段はOFF (■) にしてください。

サブソニックフィルターボタンの動作の途中で音がとぎれます。



25 メーターリカバリータイム切り換えボタン (METER)

ピークレベルメーターのバーグラフが信号に追従し、もとに復帰する時間をFAST (■) とSLOW (■) に切り換えることができます。

録音するプログラムソースに応じて見やすいポジションでお使いください。

FAST→復帰時間(0 dB→-30dB) 1.5秒

SLOW→復帰時間(0 dB→-30dB) 3.5秒

26 フォーカスボタン (FOCUS)

テープ再生時に、このボタンをSHARP (■) にしておくと、高域の再生音がシャープに再生されSOFT (■) の位置では、高域の位相特性が良くなり、定位の良いソフトな音として再生されます。

27 出力レベル調整ツマミ (OUTPUT LEVEL)

録音再生時に、OUTPUT (出力) に送られる信号の出力レベルを調整します。調整は左右同時におこなわれます。(なおこのレベル調整によりヘッドホン接続時にヘッドホンの音量も変化できます。)

28 録音入力レベルコントロール (REC LEVEL)

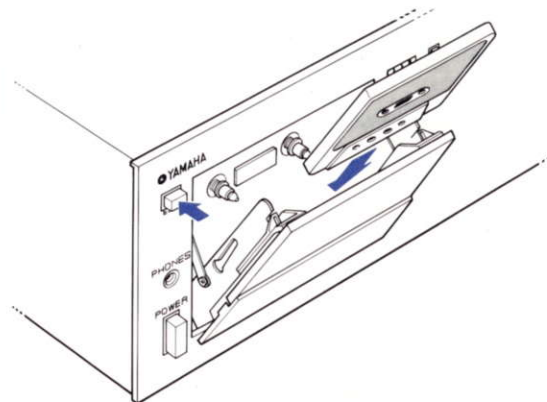
プレーヤーやチューナーなど、ライン入力 (LINE IN) 端子に接続されたプログラムやマイク入力を録音するとき、ピークレベルメーターを見ながら入力レベルを調整します。

29 シーリングパネル

シーリングパネルの中には、ひんばんに操作する必要のないスイッチやコントロールツマミが収納されていますので、普段はこのドアを閉めておきますと、すっきりとしたパネルフェイスとなります。

●カセットテープの入れ方

- ① イジェクトボタンを押してカセットボックスを開けます。
- ② カセットテープの録音、または再生する面を手前にして、ドアの内側のみぞに沿って、テープ面を下にして挿入してください。
- ③ カセットボックスのガラス中央部を軽く押しロック音がするまで確実に押し込みセットしてください。



●カセットテープの取り出し方

イジェクトボタンを押してカセットボックスを開けると、開いたカセットドアといっしょにカセットテープが出てきます。

注1) 本機ではカセットボックスが開いている時に操作ボタンを押しても動作しないようになっています。

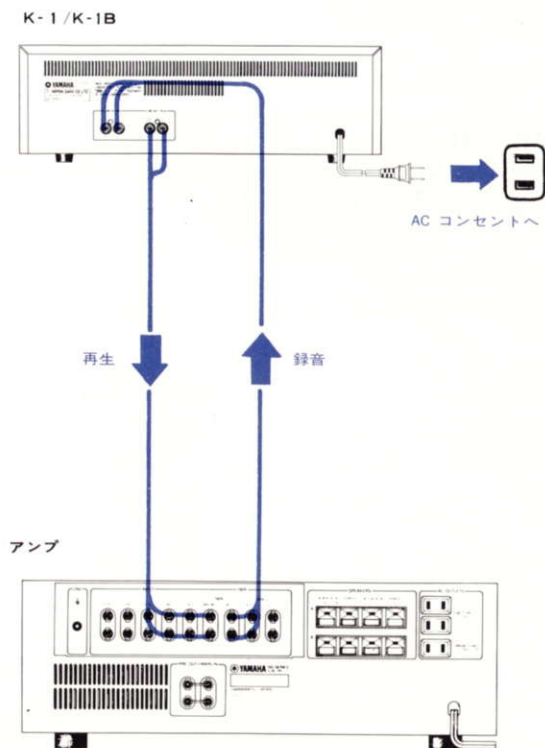
注2) テープ走行中にはイジェクトしないようご注意ください。

K-1/K-1B

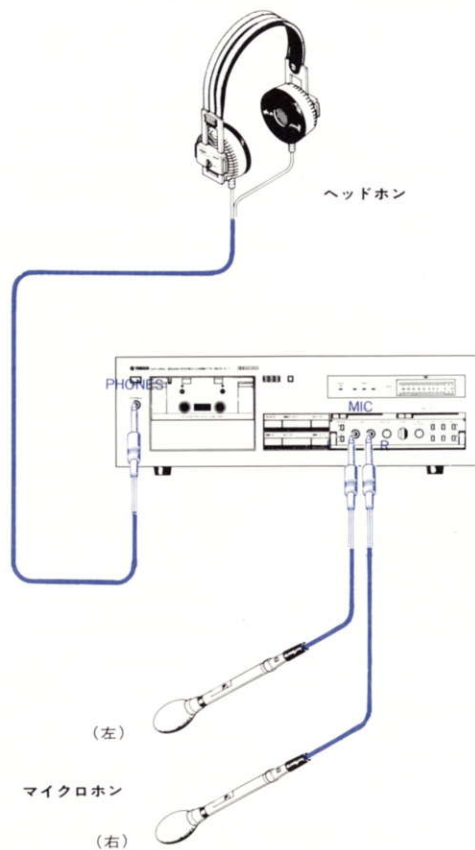
接続

■ステレオアンプとの接続

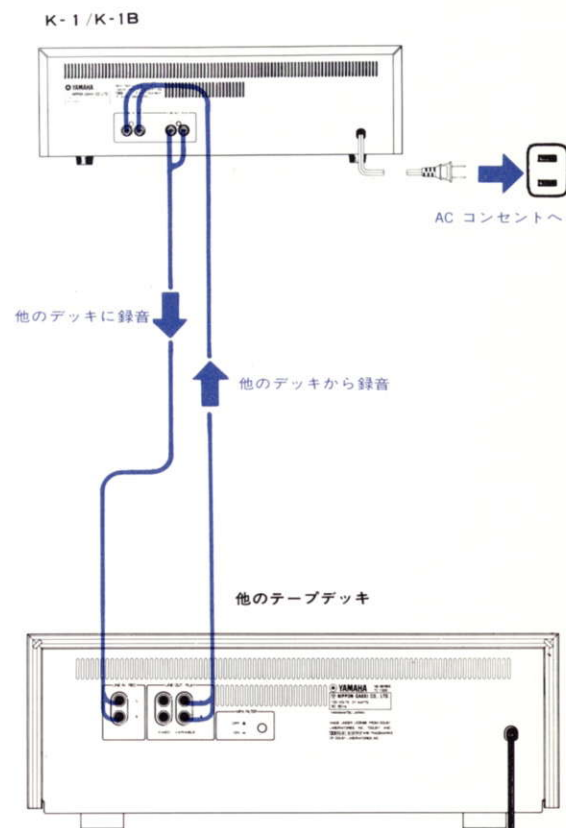
アンプの電源を切ってから接続してください。
付属の接続コードは、白色のプラグをL（左）チャンネルに、赤色のプラグをR（右）チャンネルに接続してください。
またプラグはしっかりと差し込んでください。差し込み方が不完全ですと雑音の原因となります。



■フロントパネルの接続



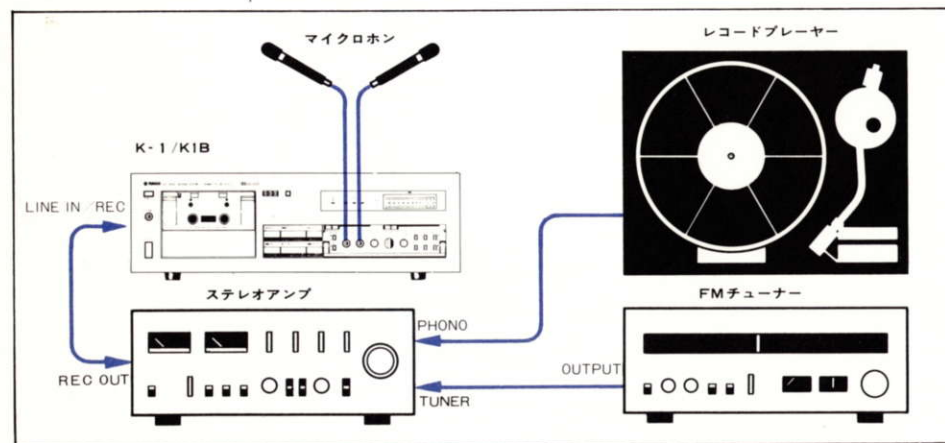
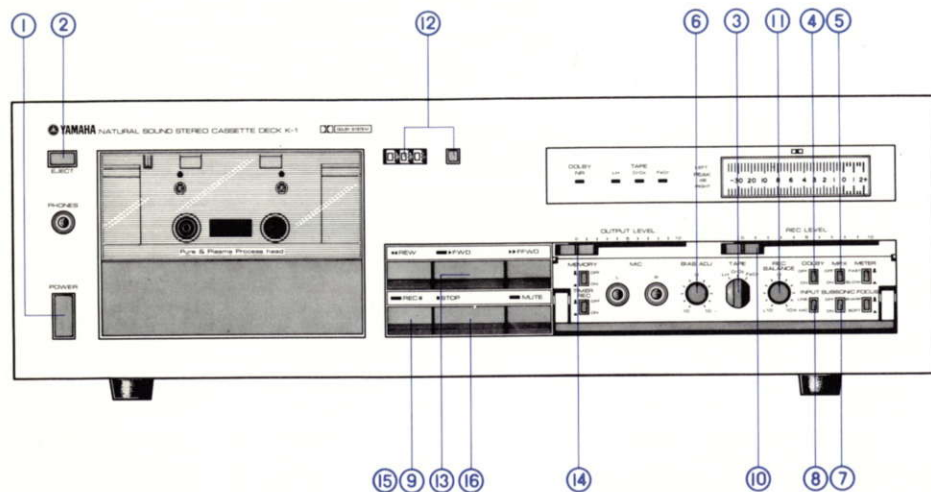
■他のテープデッキとの接続 (テープコピーの場合)



K-1/K-1B

録音の手順

※ラジオ放送や、レコード、録音物から録音したものは、個人として楽しむ以外には著作権法により権利者に無断では使用できません。



●接続図を参考に、電源マイクホン、アンプなどが正しく接続されているかどうかを確認してください。

■録音の前に

- ①電源スイッチ (POWER) を ON にします。カセットボックスの内部とレベルメーターが点灯します。

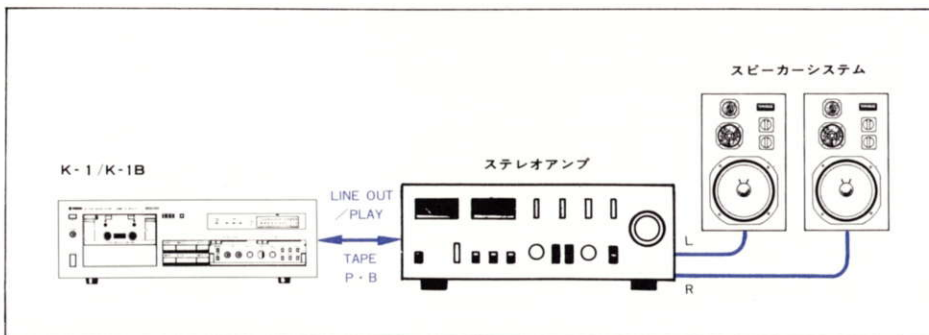
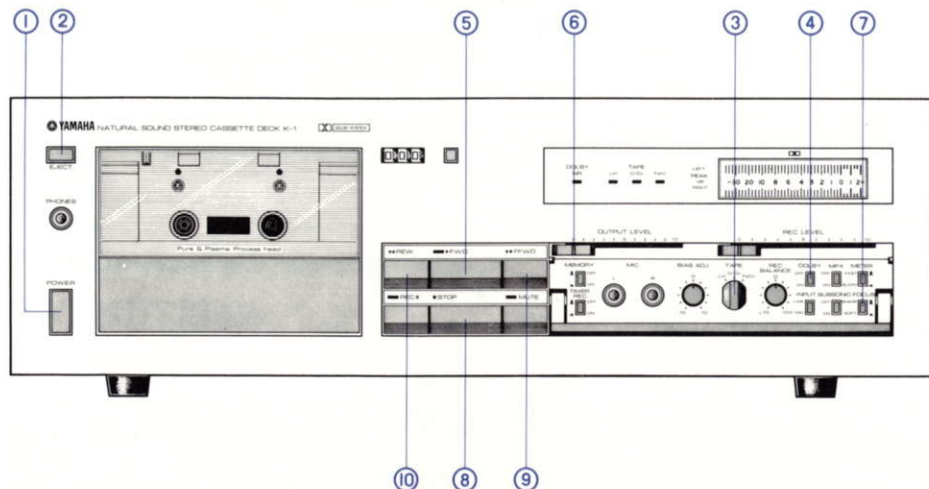
- ②イジェクトボタンを押してカセットテープをカセットボックスに入れ、ふたを閉めます。
- ③カセットテープの種類に合わせて、テープセクタースイッチ (TAPE) をセットします。
- ④ドルビーシステムで録音する場合は、ドルビーボタン (DOLBY) を ON にします。
- ⑤ドルビーシステムでFMステレオ放送を録音する場合は、MPXフィルターボタンを ON、その他の時には OFF にします。
- ⑥バイアス調整つまみ (BIAS ADJ) は P12 の表 1 を参考にして使うテープに合わせてセットします。
- ⑦サブソニックスイッチボタンをライン入力レコードのソリなどをカットする時やマイクで屋外録音時の不要な低域をカットした時などは ON にしておきます。
- ⑧入力切り換えボタン (INPUT) をマイク録音の場合は MIC に、ライン録音の場合は LINE にセットします。
- ⑨録音スタンバイボタン (REC ■■) を押します。
- ⑩録音入力レベルコントロール (REC LEVEL) を右側にスライドさせ、ピークレベルメーターを見ながらレベルを調節します。
- ⑪録音バランス調整つまみ (REC BALANCE) は 0 にセットしておきます。
- ⑫テープカウンターのリセットボタンを押して、カウンターを "000" にしておくと、プログラムの頭出しが楽になります。

■録音開始

- ⑬プレイボタン (FWD▶) を押し、テープをスタートさせますと録音状態になります。
- ⑭録音状態をモニターしたい場合は、出力レベル調整つまみ (OUTPUT LEVEL) を右側にスライドさせて、アンプに接続されたスピーカーかヘッドホンでモニターしてください。
- ⑮録音を一時停止したい場合には録音スタンバイボタン (REC ■■) を押せばテープは止まります。スタートする際にはプレイボタンを押してください。(録音スタンバイボタンとプレイボタンを交互に押すことにより断続した録音ができます。)
- ⑯録音が終わったら停止ボタン (STOP) を押してください。
 - テープが全部巻き取られるとフルオートシャフトオフ機構が働き、テープは自動的に停止します。
 - さらに片面を録音するときには、カセットテープを裏側に入れ換えてください。

K-1/K-1B

再生の手順



●接続図を参考に、電源、アンプ、スピーカーシステムなどが正しく接続されているかどうかを確認してください。

再生の前に

- ①電源スイッチ (POWER) を ON にします。
カセットボックスの内部とピークレベルメーターが点灯します。

- ②イジェクトボタンを押して、録音済みのカセットテープをカセットボックスに入れ、ふたを閉めます。
- ③カセットテープの種類に合わせて、テープセクタースイッチ (TAPE) をセットします。
- ④ドルビーシステムで録音されたテープは、ドルビーボタン (DOLBY) を ON にします。
- ⑤プレイボタン (FWD▶) を押し、テープをスタートさせます。
- ⑥出力レベル調整つまみ (OUTPUT LEVEL) を右側にスライドさせ、アンプ側の VOLUME、BALANCE、TONE CONTROL など を最良位置に調整してください。
※ピークレベルメーターの指示は、出力レベル調整つまみには関係ありません。
- ⑦フォーカスボタン (FOCUS) をプログラムソースに応じて、好みのポジションにセットします。
テープ再生が終わり、テープが全部巻き取られると、フルオートシャットオフ機構が働き、テープは自動的に停止します。
続けて裏面再生をおこなうときには、EJECT ボタンを押してテープを取り出し、裏返してカセットボックスにセットします。
- ⑧テープ再生を止めたいときには、停止ボタン (■STOP) を押してください。

早送り

- ⑨テープの途中から再生するときは早送りボタン (▶▶FWD) を押し、テープは短時間で巻き取られます。止めるときには停止ボタン (■STOP) を押しってください。

巻戻し

- ⑩テープを巻き戻してもう一度再生するようときは、巻き戻しボタン (◀◀REW) を押し、テープは高速で巻き戻されます。止めるときには停止ボタン (■STOP) を押し、テープを再生してください。
※早送り、巻き戻しともテープが巻き終わりますと、フルオートシャットオフ機構により自動的に停止します。

■ピークレベルメーターについて

本機のピークレベルメーターは、-30dBから+2dBまでのレベルをバーグラフが表示します。

通常の音楽録音の場合には、バーグラフの点灯指示値が0dBを越えないように、REC LEVELを調整してください。

本機のピークレベルメーター（DIN規格に準拠）は、一般のVU計とは指示値が異なります。-8dBがVU計の0VUと一致します。

（-8dB時 160nwb/m正弦波の磁束値）

また、このピークレベルメーターは、メーターリカバリータイム切り換えボタン（METER）によって、バーグラフの復帰時間をFAST（0dB→-30dBまで1.5秒）SLOW（0dB→-30dBまで3.5秒）に切り換えることができます。

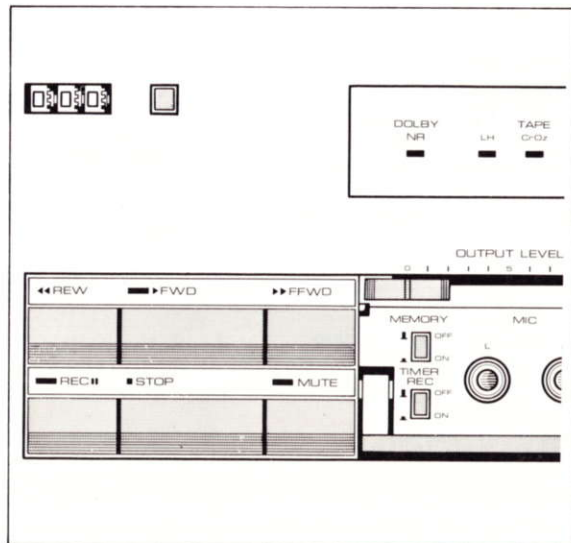
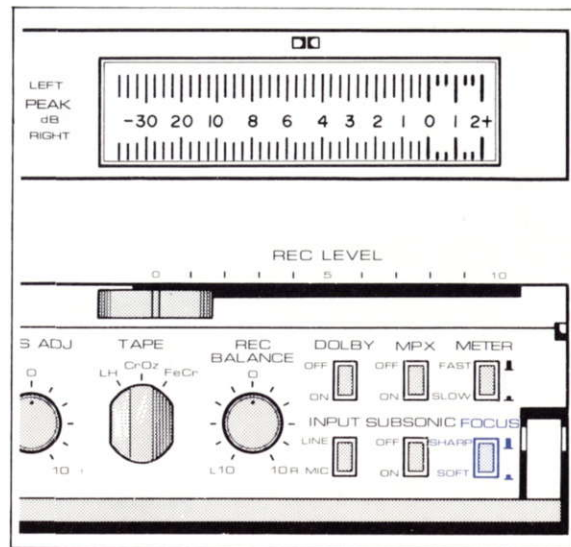
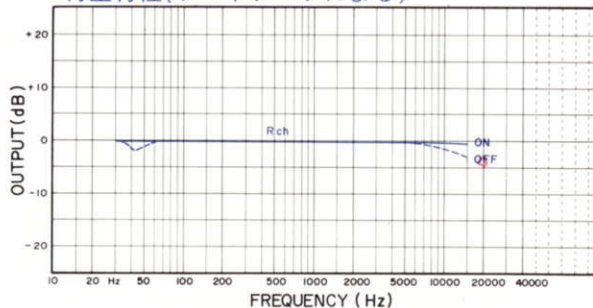
プログラムソースや、好みに応じて細かな動きを見るFAST、長時間見ても疲れない SLOWポジションのどちらかをお選びください。

■フォーカススイッチについて

本機には従来のカセットデッキにはない独自の機構としてサウンドフォーカススイッチが付いています。「SHARP」のポジションでは従来どおり主に周波数特性を重視し音のリンクをはっきりとした音を再生します。

また「SOFT」ポジションでは主に位相特性を重視し、周波数特性上では高域において若干低下しますが、再生ヘッドの位相が逆転する周波数を帯域外の高い周波数まで移しそれにより定位の良いステレオ感のある音を得られるようになっています。お使いになるプログラムソースなどにより使い分けてください。

再生特性(テストテープによる)



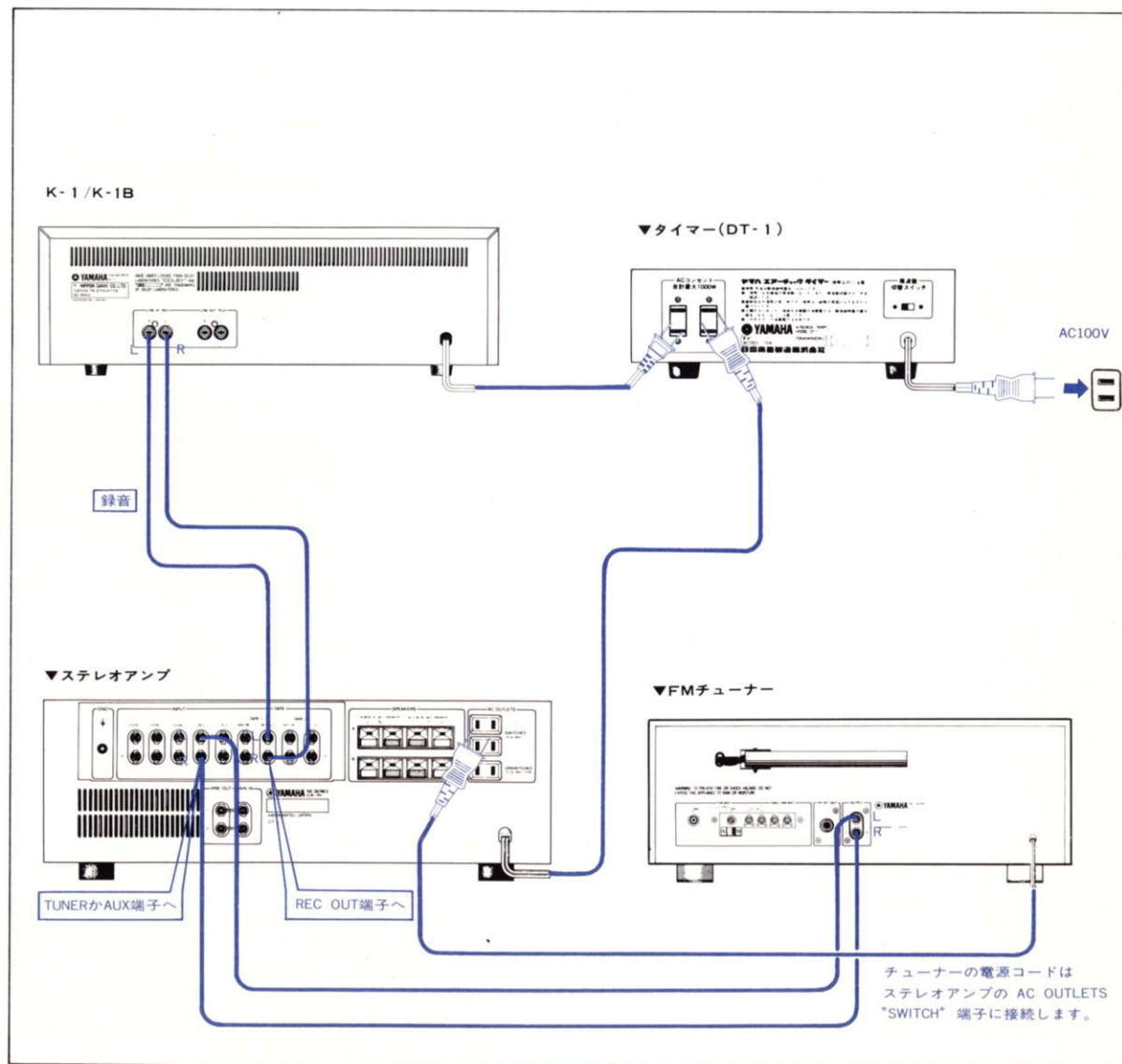
■タイマー録音について

本機のタイマー録音ボタン (TIMER REC) を ON にしておくと、市販のタイマー (YAMAHA DT-1 など) を利用して、お好きな時刻に FM 放送などの録音ができます。

録音方法

- ① 各セットの電源や、接続コードを接続します。
- ② アンプ、チューナー、レシーバーなどの電源スイッチを ON にして録音したい局を選局しておきます。
- ③ タイマーを希望の時刻にセットします。
(このとき、本機は電源が ON にならないようタイマーをセットしてください。)
- ④ 本機のタイマー録音ボタン (TIMER REC) を ON (■) にセットします。タイマーをセットした時間に録音が始まります。

(注) カセットの消去防止用の穴のツメが折られたカセットテープを使用した場合は、録音動作とならずタイマー再生となります。



K-1/K-1B

カセットテープについて

市販のカセットテープには、多種多様の製品がありますが、構造については規格統一されていますので各メーカーのものが共通で使用できます。

■カセットテープの録音時間による種類

カセットテープの型名は、往復録音時間を“分”単位で表示してあります。

種類	録音再生時間		テープの長さ (mm)
	片道	往復	
C-30	15	30	45
C-45	23	45	68
C-60	30	60	90
C-90	45	90	135
C-120	60	120	180

■カセットテープの材質による種類

カセットテープの磁性材質や、製造方法によって特性が異なります。

高性能テープを使っても、テープに合わせたバイアス量を選択しないと、十分な性能を発揮させることはできません。

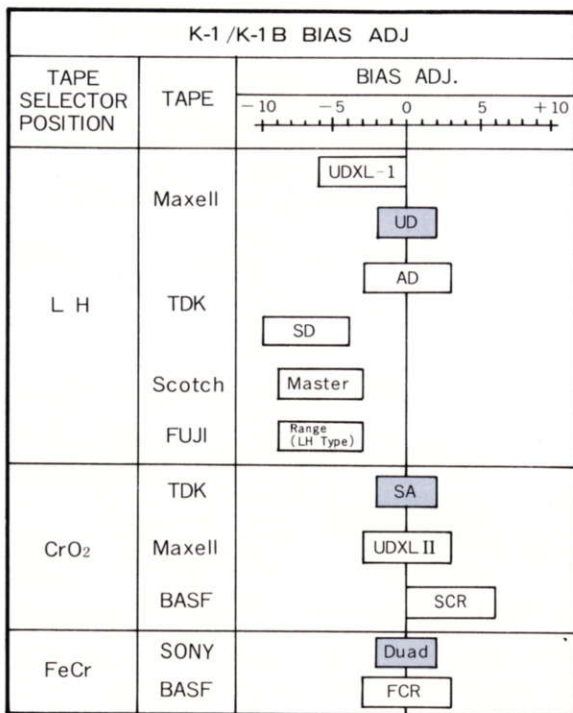
K-1/K-1Bでは、テープセレクタースイッチ (TAPE) と、バイアス調整つまみ (BIAS ADJ) によって、どのテープにも適した十分な性能を発揮させることができます。

使用テープ	TAPEセレクタースイッチの位置
ローノイズ、ハイアウトプットテープ	LH
クロームテープ	CrO ₂
フェリクロームテープ	FeCr

■バイアス調整 (BIAS ADJ) について


テープセレクターで選ばれたバイアス量を、さらに±8%微調整するのがBIAS ADJで、下図の例にあるようにテープの種類によりこのボリュームを変化させて、そのテープの持つ性能をより良く発揮させることが可能となっています。

一般には、このボリュームをセンタークリックのある0位置にセットしますと、各種のテープに幅広く対応するバイアス値となります。



●左の表に記した各社テープは、K-1/K-1Bの性能を最高に発揮させてご使用いただくための推奨テープです。

※C-120はテープが薄く、片伸びや巻き込み、巻き乱れなどのトラブルを起こしやすいので、音楽の録音などではできるだけお避けください。

※DOLBYと  マークはドルビー研究所の登録商標です。ノイズリダクションシステムは、ドルビー研究所より実施許諾されています。

あなたが本機で録音したものは個人として楽しむもののほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■録音内容の保存

カセットテープには、大切な記録をあやまって消さないように消去防止用の穴があります。録音後この穴のツメをドライバーなどで取り去ると重ねて録音できませんから、録音済の大切なプログラムをいつまでも保存しておくことができます。

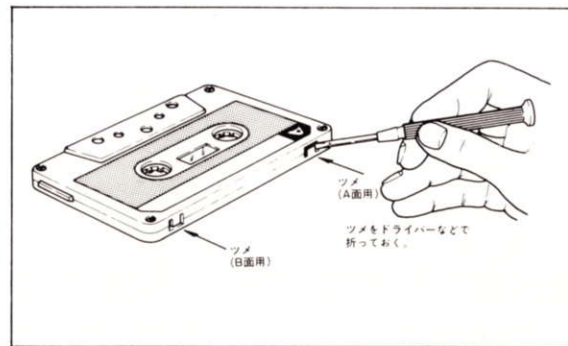


表1

K-1/K-1B

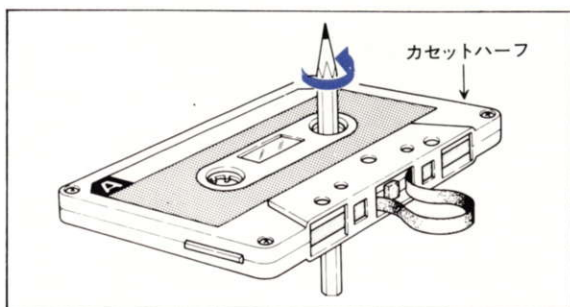
規格

※ツメを折ったカセットテープを再び録音したい場合には、穴をセロハンテープなどでふさいでください。再び録音することができます。

■テープのたるみを直す場合

テープが飛び出したり、たるんだままご使用になりますと、キャプスタンにテープがからみついたりする原因となります。

こんな場合は、鉛筆やボールペンをカセットハーフのリール軸に差し込んで巻き取り、テープのたるみを直してください。



■テープの保管

テープがたるまないようにストッパーをつけるか、市販の専用のカセットケースに入れてください。直射日光、湿気、高温および磁気のあるところ（テレビやスピーカーの近く）には置かないでください。高温や湿気はテープをいため、磁気は録音した音を消してしまいます。

また、テープ面には直接指先などを触れないようにしてください。

- 型式..... 4トラック2チャンネルカセットデッキ
- メカニズム部
 - テープ速度.....4.8Cm/sec±1%
 - ワウ・フラッター..... 0.04%以下(JIS,w.r.m.s)
..... 0.1%以下(DIN,45,500)
 - 早送り、巻き戻し時間.....75秒(C-60使用時)
- アンプ部
 - 録音再生周波数特性.....30~16,000Hz±3dB(LHテープ)
..... 30~18,000Hz±3dB(CrO₂テープ)
 - 総合歪率..... 1%以下(LHテープ,1KHz,160nwb/m)
..... 1.6%以下(CrO₂テープ,1KHz,160nwb/m)
 - 総合S/N比..... 60dB以上(CrO₂テープ,JIS,NR OFF)
..... 52dB以上(CrO₂テープ,DIN,333Hz,3%歪み,NR OFF)
 - ドルビーNR効果..... 9dB以上
 - チャンネルセパレーション..... 30dB以上(1KHz)
 - バイアス周波数..... 105KHz
 - 消去率..... 60dB以上(400Hz)
 - 入力感度/インピーダンス.....MIC: 0.3mV/5KΩ
.....LINE: 60mV/50KΩ
 - 出力レベル/インピーダンス.....LINE: 340mV(基準レベル,再生時PB.VOL→MAX)
.....PHONES: 1mW/8Ω(160nwb/m)
..... 4mW/150Ω(160nwb/m)
- 総合
 - 使用半導体.....FET×2、トランジスタ×67
..... IC×9、ダイオード×45
 - 消費電力.....27W
 - 重量..... 9kg
 - 寸法(W×H×D)mm..... 435×141×305
 - 付属品.....ピンピンコード×2

《規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます》

K-1/K-1B

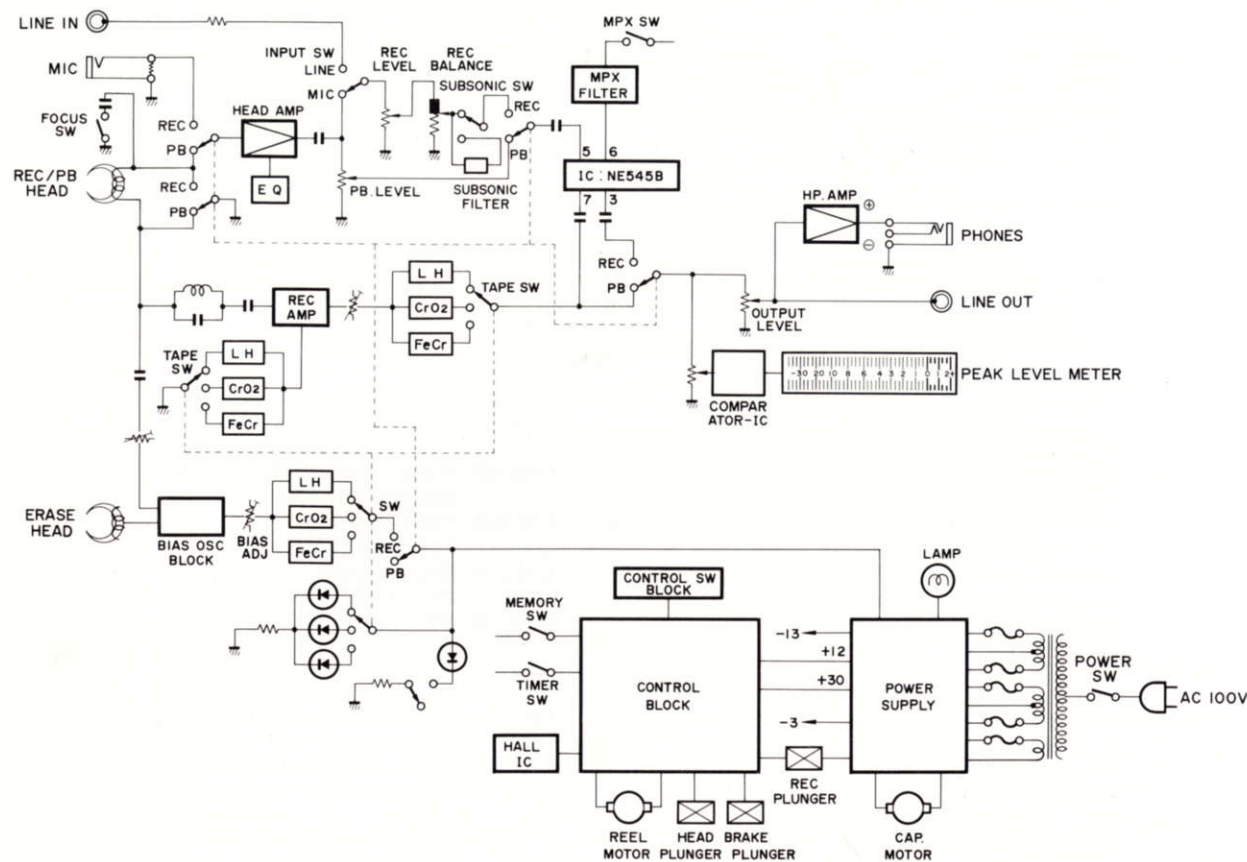
故障と思われるときには

カセットデッキの調子が悪いとすぐ故障と考えますが、単なるセットミスによる場合がほとんどです。このような症状の場合は故障ではありませんので、販売店にお持ちになる前に、もう一度お調べください。

症 状	原 因	処 置
テープが回らない (録音/再生時)	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグの差し込み不完全、POWERスイッチがOFFになっている テープが巻き終わっている 	<ul style="list-style-type: none"> 電源プラグをコンセントにしっかり差し込み、POWERスイッチをONにしてください テープを巻戻すか、カセットテープを裏返して使用します。
録音スタンバイボタンを押しても動作しない	<ul style="list-style-type: none"> カセットテープが入っていない カセットテープの後部ツメが折れている 	<ul style="list-style-type: none"> カセットテープを入れてください カセットテープを交換するか、ツメの部分をセロハンテープなどでカバーしてください
音がかすれる 音飛びがする	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドが汚れている テープ走行面が汚れている 	<ul style="list-style-type: none"> クリーニングテープでヘッドを清掃してください 新品テープと交換してください
再生の音がひずむ	<ul style="list-style-type: none"> テープがいたんでいる(片伸びなど変形 etc) 録音済テープ自体にひずみがある 	<ul style="list-style-type: none"> 新品テープと交換してください テープ自体のひずみは直せないので、別のテープに替えてテストしてください
再生音のバランスが悪い	<ul style="list-style-type: none"> ドルビースイッチのセット位置が悪い 	<ul style="list-style-type: none"> ドルビー録音されたテープはドルビースイッチONで、OFFの場合はOFFで再生してください
録音の音がひずむ	<ul style="list-style-type: none"> 録音レベルが高すぎる 	<ul style="list-style-type: none"> レベルメーターで入力レベルを確認し、録音レベルコントロールをしばってください
再生しても音が出ない	<ul style="list-style-type: none"> 本機とステレオアンプの接続が不完全 	<ul style="list-style-type: none"> 最初から接続を見直してください
雑音が多い	<ul style="list-style-type: none"> ヘッドが汚れている ヘッドが帯磁している 粗悪なテープを使用している 接続コード差し込み不完全 外部からの誘導雑音 	<ul style="list-style-type: none"> クリーニングテープで清掃してください ヘッドイレーサーでヘッドの消磁をしてください 良質テープと交換してください 各入力、出力の接続部を点検し、コードを正しく差し込みます 他の電気器具(テレビ、蛍光灯、電気毛布など)の誘導雑音の発生源から離してください
ワウ(音のふるえ)が多い	<ul style="list-style-type: none"> キャプスタン、ピンチローラーなどの汚れ カセットテープの中のテープが一樣に巻かれていない 	<ul style="list-style-type: none"> クリーニングテープで清掃してください 早送り、または巻戻してテープをしっかりと巻き直してください
録音または再生の途中でストップしてしまう	<ul style="list-style-type: none"> テープがゆるんでいたたり、飛び出していたためキャプスタンに巻き付いてしまっている。またはテープの不良 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆などでカセットテープの軸をまわして、テープを張り直してください
マイク録音中「ワーン」という発振音が出る	<ul style="list-style-type: none"> マイクとスピーカーの位置が近すぎる 	<ul style="list-style-type: none"> マイクとスピーカーを離すか、アンプのVOLUMEツマミを回して、音を小さくしてください
録音ボタンを押しても録音できない	<ul style="list-style-type: none"> 入力切り換えスイッチ(INPUT)を録音するソース側に切り換えていない 録音入力レベルコントロール(REC LEVEL)が絞られている 	<ul style="list-style-type: none"> MICの場合はMICに、LINEの場合はLINE側に入力切り換えスイッチをセットしてください レベルコントロールを右側にスライドさせてください
巻き戻しボタンを押しても途中で止まってしまう	<ul style="list-style-type: none"> メモリーストップスイッチ(MEMORY)がONになっている 	<ul style="list-style-type: none"> くり返し再生をおこなうとき以外には、メモリーストップスイッチはOFFにしてください

K-1/K-1B

ブロックダイアグラム・サービスのご依頼について



●サービスのご依頼は、お買い上げ店、または日本楽器各支店オーディオサービス係へお願いいたします。

■カセットデッキの保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。ただし、現金、ローン、月賦などによる区別は一切いたしません。

■保証期間の1ヵ年を過ぎても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。なお、補修用性能部品の保有期間は8年とされております。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中“故障と思われるときには”の項をお読みになってください。意外と故障ではない場合があるものです。

(ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障でない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきますのでご注意ください。)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。

(セットの具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえない事情によってお約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしなさいません。)

■日本楽器各支店への持ち込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買い上げ店、又は最寄りの日本楽器各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(裏表紙のオーディオサービス係又は日本楽器各支店の所在地と電話番号をご参照ください。)

■カセットデッキの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、カセットデッキの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。(あらかじめ補修部品などを手配し、早く、確実にサービスにお伺いできます。)

■サービスのお約束

昼間ご不在がちなお客さまや留守がちのお客さまは、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪い時には、できるだけ早くご連絡くださるようお願いいたします。(出張料の二重負担が防止でき、お徳です。)